

太田市立葦川小学校

学校便り

くすのき

第19号

平成26年12月19日（金）



【園芸委員会の活動、パンジーの植え付けです。】

「葦小人権週間」終わる 12月1日～5日

人権に関する正しい理解と尊重への意義の高揚を図るとともに、思いやりのある児童の育成を目指す本校の人権週間を実施しました。この間、親子で人権標語を考えてもらったり、ビデオを視聴したりして人に対しての思いやりの心を学びました。休み時間や放課後などお手伝いを進んでしてくれる子どもたちも増えます。「人に優しくしたら優しくしてもらえるよ」と小さい子ども達に話しています。葦っ子たち優しさの輪が広がるようになるとうれしいです。

人権標語の各学年の代表です。 人権集会で発表しました。

- 1年 松澤 花道 「だれとでも えがおで あいさつ おもいやり」
- 2年 天笠 弥子 「ありがとう その一言で すくわれる」
- 3年 澤口 七泉 「心のいたみ 自分も他人も いっしょだよ」
- 4年 安田 麗奈 「手をつなぎいじめゼロで明るい未来」
- 5年 矢守 菜々美 「私から みんなにとどけ おもいやり」
- 6年 茂木 遥花 「なくそうよ 差別という名の 境界線」

人権作文の代表です。 学年代表として人権集会で発表しました。

人権教育ビデオ「新ちゃんがないた!」: 足の不自由な新ちゃんと親友のつよし君が、新ちゃんの足が不自由なことを理由に周囲の子から差別を受ける話です。しかしそのハンデをものともせず、色々なことに周囲と同じように取り組む新ちゃんの姿に、周囲の子が差別、人権問題について考え、気づいていきます。

5年 吉田 菜津奈

私は、人権教育ビデオ「新ちゃんが泣いた」を観て、足が動かないと1日の生活がとても大変だとわかりました。足が不自由な人をからかったり、いじめたりすることは、とても悪いことです。新ちゃんは毎日、いじめやかからかいにも負けず頑張って学校に通っていて、とても強い子だと感じました。それを見ていたつよしは、いつも新ちゃんを手伝ったり、助けたりしてとてもいい子だと思いました。

新ちゃんがいつも強くいられるのは、しょうご兄さんの「泣いて強くなれるなら泣けばいいさ!」という言葉のおかげです。私も新ちゃんやしょうご兄さんのように前向きな子になりたいと思いました。友達が傷つけられていたら助けてあげないといけないなと思いました。私はこれを観て、とても勇気をもらいました。

人権教育ビデオ「おじいちゃんのトマト」: からだの不自由な祖父を持つ家族が抱える高齢者問題や、主人公の少年貴志のクラスに転入してきた英雄への外見の違いから生じるいじめや差別の問題、不登校、いのちの尊厳などの問題を描いたものです。

6年 大森 潤紀

おじいちゃんのトマトを見て、ぼくは、人間一人一人の命の大切さを学びました。目の色、かみの毛やはだの色でいじめが起きるのは、とてもざんこくだと思いました。転校してきた英雄君は、はだの色、しゃべり方がちがうけど、心はみんな同じものをもっていると分かりました。おじいちゃんが思っていたこと、お母さんが思っていたことなどが一つになったように、ぼくも色々な人と心が一つになりたいと思いました。

今、人権標語と作文の発表を聞きました。よくできました。先生も廊下や階段に貼ってある人権標語をすべて読みました。一人ひとりがよく考えているなあと感心しました。

これから人権についてお話します。

人権とは、「人がその人らしく生きていくことができる権利」のことです。しかし、現在も世界のあちこちで、戦争やテロのようなことで、多くの人が死んだり、家族をなくしたりしています。日本でも、毎日のように事故や事件で命を失う等、悲しい出来事やあってならないような事件が起こっています。皆さんは、どんなことが頭に浮かびますか。

人は、みんな違います。顔、体の大きさ、皮膚の色、性格、障害のある人、男の子と女の子・・・など、でも、みんな一人一人が、かけがえのない命をもっていて、その人なりに精一杯生きています。人として生きる権利をもっているのだから、自分を大切にすることはもちろんですが、同時に、他の人の命や他の人の気持ちも大切にしていかなければなりません。

みなさんのお家の人は、みなさんのことをかわいくて大切な、大切な宝物のように思っています。自分の子どもがいじめられていたらどう思うでしょうか。だからこそ、自分の命や体を大事にすると同時に、友達や周りの人のことも大事にしていってほしいと思います。

そこで、日本は、1949年（昭和24年）から毎年12月10日を最終日とする1週間を人権週間として、みんなで人権について考えてみようということになりました。荊小は、今年度12月1日から5日までです。

さて、一番身近なところで人権の問題って何かな？ 相手を傷つけること、絶対に言ってはいけないことってありますよね。これからお話しすることはそんな身近なことです。

先日、皆さんの授業の様子を見ようと思って教室に入りました。ある子が先生に指されて、質問に答えようと頑張っていました。でも、なかなか上手に話すことができませんでした。その時です。クラスの子から笑い声や馬鹿にするような声が聞こえてきました。先生は、一生懸命に答えているのに「かわいそうだなあ。」と思いました。皆さんは、どう思いますか。一緒に笑う方かな？、何か言うかな？・・・

でも、一人の子が、「笑っちゃだめなんだよ。」と言ってくれました。担任の先生も「その通りだよ、ちゃんと聞いてあげようね。」と言ってくれました。その後は、静かになりました。先生も「みんな分かってくれたんだな」と思い、ほっとしました。

この話のように、「笑っちゃだめなんだよ。」と言ってくれた子は、人を思いやる心とみんなの前でも言える勇気があると思います。その一言でそのクラスが変わりました。皆さんの中にも、「だめだよ その一言がいじめを変える」という人権標語を考えた子がいました。この話にも通じるような標語で、身近な生活の中で起こっていることに目を向け、考えている子がいて嬉しく思い紹介しました。

人を馬鹿にすることは人の心を傷つけることになってしまいますが、ついやってしまうということもあるかもしれません。そんな時、「それはだめだよ」、って教えてあげることがとても大切だと思います。きっと、自分のよくないことに気がついて、これからは、笑ったり馬鹿にしたりしないようになると思います。もし、相手の人に直接言えなかったら、必ず担任の先生に話して下さい。

人権に関するさまざまな問題を解決するには、皆さん一人ひとりの力が必要です。周りの人に左右されずに、「自分だけはしっかりやろう」とする気持ちが大切で、それがみんなの力になると思います。

荊川小学校517人のだれもが「学校は楽しいな」と思う学校にするにはどうしたらよいかを、人権週間の中で、一人一人考えて行動に移してみましょう。



